

会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 1-38	令和6年度第6回 墨田区図書館運営協議会		
開催日時	令和7年1月26日（日） 午前10時から11時40分まで			
開催場所	墨田区立ひきふね図書館5階会議室			
出席者数	<p>【委員】11名 日向 良和（会長）、今井 福司（副会長）、松塚 智加子、駒田 るみ子、金 豊子、矢島 真理子、齊藤 宮子、正岡 恵子、津村 しづ恵、口中 常嘉、横井 貴広</p> <p>【事務局】 ひきふね図書館長、ひきふね図書館次長、ひきふね図書館主査、ひきふね図書館担当職員2名</p>			
会議の公開 （傍聴）	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	1人
	非公開(傍聴できない)			
議 事	議事第1 墨田区子ども読書活動推進計画（第5次）の策定について 議事第2 その他			
配 付 資 料	<p>次第</p> <p>【資料1】計画案に対するパブリックコメント（意見募集）実施結果について</p> <p>【資料2】墨田区子ども読書活動推進計画（第5次）（案）</p> <p>【資料3】子ども向け概要版（案）</p>			
会 議 概 要	<p>墨田区子ども読書活動推進計画（第5次）の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの実施結果及び計画への意見反映について ・区議会子ども文教委員会、庁内策定員会報告 ・計画概要版の作成について 			
所 管 課	ひきふね図書館（電話：5655-2350）			

■議事第1 墨田区子ども読書活動推進計画（第5次）の策定について

日向会長

本日は読書活動推進計画の最終の確認となる。

パブリックコメントの実施結果や議会の結果等について報告を頂くとともに、来年度から計画が始まるにあたり、周知するための概要版の作成についても議論していきたい。資料について事務局に説明をお願いします。

事務局

資料説明（11月議会で報告した際の議会からの意見等について報告。

パブリックコメントの実施結果及び、庁内策定委員会について報告）

日向会長

計画本編について、パブリックコメントや議会等の議論を踏まえ、軽微な修正は施されているものの、基本的には趣旨について大きく変わったものではないと考えるので、ご理解いただきたい。

パブリックコメントの実施結果に、区民の方から情報発信をしてほしい旨意見があった。また、寄せられた意見に基づき、計画を修正する箇所についても、情報発信に関する事項が多いことが確認できた。計画の周知には、各委員の協力が必要であるため、引き続き委員の皆様にご尽力をお願いしたい。

この後は3月の議会を経て決定となるが、そこでは字句の訂正程度にとどまると思われる。本日の会において、計画について運営協議会としての最終的な確認ということになる。私の感想としては、運営協議会における各委員の意見を集約して反映がなされていると思う。5年後に計画に示された目標が実現できているかが何より重要であり、そのためにも各委員の協力が引き続き必要である。

なお、計画巻末に皆さんのメッセージが載っているので確認をしていただきたい。加筆・修正したい場合は今週末までに図書館まで連絡をお願いしたい。何か意見や質問はあるか。

意見がないようであれば次に計画の概要版について、皆さんにお諮りしたい。

パブリックコメントにもあったが、一般の方には計画は内容的にも分量的にも読んで理解することは難しい。概要版は本計画について、目標は何か、何をしていくのか、何をしてほしいのかを共有するものである。たたき台として事務局が作成した資料3の概要版を基に、掲載内容だけでなく、文章の書き方などについてもご議論いただきたい。

まず、表紙には計画の目的が記載されている。ここで重要な部分は「本を読まなきゃだめですか？」という問いかけ部分である。大人はなぜ子どもに本を読めというのか、その理由を子どもたちに伝えていくことが重要である。

次に見開きでは、計画の方向性について、子どもの発達の特性ごとに記載している。最終ページは、計画はみんなで取り組むということと、図書館の簡単な紹介が記載されている。ただし、これはあくまでもテスト的なものなので、皆さんから全体的な意見を頂きたい。

口中委員

この概要版は子ども向けか。そうであれば、色づかいが良くない。子ども向けには、も

う少し明るくきれいな色づかいが良い。なんとなく、薄暗い感じがする。また、難しい漢字もあり、子どもには読みにくい。

齊藤委員

フォントは「UD フォント」を使うべきである。このたたき台では様々なフォントが使われているが、読みにくいものもある。色についてもロービジョンや色弱の方でも読みやすいよう工夫したほうが良い。そのような方には文字の背景の色等により却って読みにくくなる場合がある。ただ、真っ白も反射して読みにくいこともあるので注意が必要である。イラストもあまりいらぬ。入れるのであれば単純なイラストが良い。ぜひ当事者である子どもの意見も聞いたほうが良い。例えば子どもがいる協議会委員に聞いてみても良いかもしれない。

横井委員

記載されている内容が、乳幼児や小学生対象から高校生対象まで幅広い。そのため作りが複雑となっており読みづらい。また、多くのことを伝えようとし過ぎているため、言葉が多く、これでは却って伝わらないのではないかと思う。例えば、伝えたいことをすべて文字にするのではなく、一部を二次元バーコードでリンクにするとかでも良いのではないか。また、一回だけ読んで事足りる内容であれば、すぐ捨てられてしまう。家で保管してもらうため、例えば開館情報や貸出情報、電子書籍の情報などを掲載し、家に保管していれば役に立つチラシになると良い。

矢島委員

保護者向けであればこれで良いと思う。小学生や乳幼児などそれぞれの発達特性の内容が載っているの、子どもが小学校から中学校にあがってもこのチラシが役に立つ。保護者にとっては1枚もらうだけですべて事足りる内容である。ただし、子どもたち本人が読むかどうかは疑問である。中高生なら読めると思うが、小学生以下では難しいと思う。また、動画が二次元バーコードでリンクされているが、その動画は子どもには理解できないものである。誰に対しての概要版なのかを考えたほうが良い。保護者向けであれば良いが、情報が多く子どもには難しい。

津村委員

この概要版を学校に置いても、字が多く低学年の子どもたちにとっては、自分たちのものとはならない。子どもたちのために作ったとしても、この内容であれば手を出さないとと思う。

矢島委員

概要版にリンクされた図書館の動画は、本来長い時間をかけて学ぶ難しい内容を、短い時間にまとめたものであり、図書館の関係の人間からみると非常によくまとまった動画であるといえる。ただ、一般の方が見るものとしては長く、楽しく見られるものではない。概要版に動画をリンクするのであれば、忙しい保護者向けに、キャラクターをつけて注目されるようにしたり、短く編集するなど、人目を惹きやすく話題になるとともに、見やすくしたりする等の工夫が必要である。ネットの世界では動画は15秒と言われており、10分の動画は見ない。これはじっくり学びたい人向けであると言える。

松塚委員

一つの概要版で小学生・中学生と保護者、すべてをターゲットにするには無理があるように思う。手間だとは思いますが、ターゲット毎に作成したほうが良いのでは。支援を必要とする子どもに向けて、色味や文字なども工夫すべきである。掲載するキャラクターも統一すべきである。車いすのイラストについて、人の絵が半分に切れているのは人権の観点から良くない。この先、絵やイラストをいれるのであれば気を付けるべきである。「QRコード」という用語は登録商標の関係があるので確認したほうがよい。最後のページの「保護者の方へ」において、「本が好きではないのですが」という項目と、その文中においても「イヤイヤ読んだり」や「無理やり読ませたりする」、「本は怖いもの」といった、本に否定的な文言が並んでおり、本に対する悪い印象を植え付けて、マイナスの効果を助長しかねない。言い回しをポジティブで明るい文言に言い換えるほうが良い。このような冊子にはネガティブな言葉は使わないことが原則である。

日向会長

「QRコード」という用語は登録商標であり、商売で使うわけではないが「二次元バーコード」という言葉にしたほうが良い。また、基本的に漢字を使うならば、ふりがなは全部入れたほうが良い。日本語がうまく読めない方にも読んでいただくためである。

一旦、概要版はこのまま作ってみて、周知する中で、例えば中高生の図書館サポーターを活用し、子どもたち自身で概要版を作るなり、説明するカードを作るなりすれば、学習にもなるし、見やすいものにもなるため、より効果的な周知になるはずである。子ども向けと保護者向けを同時に両立させるのは無理であると思う。まずは、保護者向け、大人向けを作って、それ以降に子ども向けを作っていくなどでも良いのではないか。どちらかしか作りませんではなく、順番に作っていくのでも良いのではないか。また、デザインも工夫したほうが良い。どこを読むのか迷ってしまう作りである。ちなみに、大人向けで作る場合でもふりがなはあったほうが良い。

事務局

キャラクターは現在オリジナルのものを作成中である。子豚のデザインを考えており、この5次計画から登場させ、今後も様々な場面で使用していくつもりである。

動画について、職員のスキルでは効果的なものを作るのはなかなか難しい。予算もかけられるものではないため外注も難しい。

概要版の対象については、事務局内でもかなり議論を重ねてきた。内部で作成し、印刷・配布するものであり、手間やコストを考えると1枚ものにしたかった。ただ、本日頂いた意見を踏まえ、より子どもに伝えやすくするという観点からも、対象は分けて作っていきたい。ただ、重点的に伝えたい項目として、みんなで議論してきたそれぞれの特性の目標は伝えていきたいと考えている。

矢島委員

保護者向けであれば赤ちゃんから中学生まで書かれてあっても良い。これとは、別に当事者向けがあっても良い。

日向会長

まず1枚ものを作って、周知していく中でブラッシュアップをしていくのも良いし、来年度以降個別のチラシを作っても良いのではないかな。

なお、フォントについてPOP体は文字を崩してあるので、ひらがな等は読みにくい。使用するフォントはUDフォントが良い。また、全体として文章が多く、文字の密度が高い。削れる文章も多いのではないかな。例えば「保護者の方へ」の2段目の2行目等は「本が嫌い」という表現は不要であり、「一緒に読んでみましょう・一緒に本を選んでみましょう」といった問いかけだけで事足りる。もう少し文章を推敲し、概ね半分くらいに削っても良いくらいである。見開きは一言で、言いたいことだけを伝えるくらいに削っても良い。例えば、「小学生のおともだちへ」のところで「みんなのいるところにほんをそろえるよ！」だけでよい。学校や児童館といった具体的な場所についての言葉は不要である。これだけで、子どもたちには言いたいことは伝わる。乳幼児の部分についても、「本のお話をしよう」という事が伝われば良く、事務局としてPRしたいという気持ちもわかるが、図書館の紹介文は不要である。このように削っていくと文章量は半分にはできるはずである。とにかく、区民の方に子どもの読書について考えてくださいという趣旨が伝われば良い。

動画については、大学でも学校紹介動画を、学生に短い10秒程度のもを撮ってもらい、発信して高校生に見てもらおうようにしている。本の紹介や、ブックトークを高校生に行ってもらい、それを撮影し発信するなども学習にもなるし良いのではないかな。今後の様々な活動の中でコンテンツを増やしていけば良く、今から無理やり紹介動画は作らなくても良い。もし新たに紹介動画を作るのであれば、例えば教育長に計画についての思いや、皆で一緒に取り組みましょうといった呼びかけを短く語ってもらうような動画でも良いのでは。

矢島委員

概要版は二次元バーコードで計画本編が読めるようになると良い。また、読んだ人は詳しい情報を瞬時に取りたがるものであり、例えばプロジェクト事業の紹介や応募についての情報にリンクする二次元バーコードがあれば良い。問い合わせ先を始め、事業の開始時期や、実施場所といった情報について、プロジェクトに参加したい子どもがすぐにアクセスできるようになれば参加者も増えるはずである。

日向会長

計画の事業については、新年度から少しずつ始まっていくものなので、すぐに事業の情報を載せられないかもしれないが、「順次開催していきます」などの告知は必要である。概要版を見た人は問い合わせをしたくなると思うが、それに対し「随時ホームページで告知します」といった文言が必要である。

正岡委員

句読点のありなし、文字下げができていない。漢字、ひらがなやふりがなの統一もなされていない。気になって内容が入ってこない方もいるので、チェックをしていただきたい。

日向会長

配付を始めるのは4月か。

事務局

間に合えば3月の委員会で示したいが、特に議会に対して作成や配布の時期を約束したものではないため、4月になってからの公表でも良いと考えている。

日向会長

概要版は何回作っても良いと思う。今日は多くの意見を頂いたので、なるべく議会に間に合うよう、この案に沿って作成し、バージョンアップを行いながら、複数のパターンを作っていくのが良い。やはり少なくとも4月のスタート時に概要版が欲しい。

駒田委員

議会の議論において子ども向け概要があったほうが良いということであったかと思うが、パブリックコメントにもあった通り、やはり最初は大人向け・区民向け概要版が良い。そのあと、それを基に精査して、子ども向けを作っていくほうが良いのでは。一見、回り道のように見えるが、大人向けをしっかり作り、それを子ども向けにアレンジするほうが作りやすいと思う。学校でも職員に第5次計画ができて図書館の何が変わったかを知って欲しい。

日向会長

他に意見がなければ、これまでの議論に基づき概要版の作成について、事務局に努力していただき、最終案をメールで各委員に共有していただきたい。4月以降も意見交換しながら概要版のブラッシュアップができればと思う。

パブリックコメントにもあったがやはり周知が大事である。具体的なビジョン・目的の共有、私たちは何をすればよいか、図書館は何をしてくれるのかが示せればよいと考える。その後、中高生ボランティアの活用なども検討しながら、個別の概要を作っていけばよい。今の子どもはセンスが良いのできっと良いものを作れると思う。いずれにせよ、計画は作って終わりではない。周知イベントなど、今後も皆さんの協力をいただきながら計画の実現に向けて取り組んでいきたい。1年間皆様の協力に感謝する。事務局はこの計画に基づき、事業化・予算化を図っていただきたい。ただし、予算化から事業化は1年越しのスピード感となってしまふことを委員の皆さんにも理解していただきたい。今後は計画事業の報告等も行われると思うが、その際にはまた皆さんの協力をいただきたい。

事務局

今年度の協議会は計画についての議論が中心であったが、新年度に各館の取り組みを報告させていただく。

日向会長

今年度最後の委員会でもあるので、各委員・事務局から感想をいただきたい。

委員・事務局

(感想を述べる)

日向会長

それでは、時間となったのでこれで第6回図書館運営協議会を終了する。